

全国選抜で連覇

東高相撲部 遠藤が個人優勝

金沢学院東高相撲部は三月二十二、二十三日、高知市で開かれた第五十九回全国高校選抜大会に出場し、団体で連覇を果たしました。個人でも遠藤聖大選手（二年）が初優勝しました。二月の弘前大会に続く全国大会の団体優勝で、昨年は準優勝だった金沢大会の雪辱へ自信が増した格好です。



団体連覇を喜ぶ東高相撲部員。前列左端が個人優勝の遠藤選手。高知県立春野総合運動公園相撲場（北國新聞社提供）

金沢大会の雪辱に自信

同大会での連続優勝は六校目で、石川県勢では初めてです。予選は武田恭平、川端翔伍、袖川智志の三選手で勝ち進み、決勝トーナメントからは、左膝を痛めた袖川に代わって主将の遠藤選手が大将を務めました。東高は団体予選から決勝トーナメントまでの全八試合の対戦で一つも負けず、二十四個の白星を連ねました。

個人戦は、遠藤が決勝までの八試合を鍛えた突き押しで

【東高校団体戦成績】

予選	3勝9点	翠工業
3-0	洪川青	岡
3-0	向の	丘
3-0	希望が	トナメント
決勝	3-0	宇佐産業科学
1回戦	3-0	希望が丘
2回戦	3-0	文徳
準々決勝	3-0	拓大紅陵
準決勝	3-0	鳥取城北
決勝	3-0	

勝ち進み、初めての全国タイトルを手に入れました。石川県勢では、第三十五回の山崎直樹選手、第四十二回の出島武春選手以来、十七年ぶりの個人優勝です。

無敵ともいえる完全優勝により、新チームになって

カトリック金沢教会に ステンドグラスを寄贈

山口教授夫妻が制作



金沢学院大学美術文化学部の山口征三教授夫妻が制作し、寄贈したステンドグラス。写真上が三月二十三日、金沢市のカトリック金沢教会で披露されました。高さ三・五メートル、幅七十五センチの三枚組で、キリストの復活が描かれています。

第二清鐘寮が完成

昨春秋に着工した金沢学院第二清鐘寮「写真下」が三月二十七日、東高近くの末町地内に完成し、施工業者から引渡しを受けた三十一日、学生、生徒が入居しました。

第二清鐘寮は、敷地面積二千三百平方メートル、鉄筋コンクリート造り三階建て、延べ床面積は二千三百十六平方メートルです。バス・トイレ付きの個室六十六室（一人用、二人用）のほか、管理室、学習室、談話室、和室、各階に洗濯室、自転車置き場などがあります。

大学硬式野球部と相撲部、東高卓球部の部員が入居します。



既にも二冠を達成、五月の金沢大会、夏のインターハイ、秋の国体と五冠の夢も膨らんでいますが、大澤恵介監督は「相撲は何が起きるか分からない。気を引き締め、金沢大会に臨む」と話しています。

笠森先生は昭和三十七年に金沢女子短大高校の教諭となり、平成七年から短大教員を務めました。長年の研究成果が認められ、四月から室生屋星記念館の館長に就任します。



小畑監督らに協会表彰
金沢学院大学ウエイトリフティング部の小畑直之監督と長谷場久美コーチは三月二十二日、日本ウエイトリフティング協会の優秀指導者賞を受けました。

また、昨年のアジアジュニア選手権で優勝した嶋本麻美、日本記録樹立の新谷義人、橋田麻由、城内史子の金沢学院関係選手に優秀選手賞が贈られました。

3人がひと足遅れの卒業
金沢学院大学文学部と経営情報学部の学生合わせて三人が三月三十一日付で卒業証書・学位記を受け、卒業しました。

発行・広報室